



- ① 家庭菜園部（東京事務所のベランダ） ② 春のファッションコーディネート会（定例サロン）
③ ダイバーシティカップ5 ④ 今期の発行物
⑤ 歩こう会による“道端おそうじ隊” ⑥ 第 10 回大阪ホームレスクリスマスパーティ（photo：草田康博）

目 次

03	はじめに — 発想の大転換へ 未曾有の自然災害、社会変動と向き合っ
04	第 12 期の活動概要 — ホームレス支援のアップデートに向けて
06	つながって生きる — 生活自立応援プログラム
06	・ 何があっても大丈夫 — 当事者への情報や交流機会などの提供
08	・ 暮らしを取りもどす — 健康・住宅・法律・金銭管理など相談活動
10	・ 仕事がしたい — 仕事・就業応援プログラム
11	・ 生きていてよかった — スポーツ・文化活動プログラム
12	生きやすい社会をととのえる
	— ホームレス問題解決への実践的ネットワークと政策提案
12	・ 暮らしの基盤をつくる — 住宅政策提案事業とステップハウスの実験的事業
12	・ 新しい仕事をつくる — 若者をホームレスにしないために
13	・ 依存症からの脱却 — ギャンブル障害の調査・提案事業
14	・ ダイバーシティカップ — スポーツによる社会的包摂の空間づくり
15	市民が社会をつくる — ボランティア活動と市民参加
15	・ 参加のチャンスをつくる — ボランティア参加プログラム
15	・ 市民応援会員、メニュー寄付、任意寄付、物品寄付 — 寄付参加プログラム
16	・ 広報・メディア掲載他
18	これまでの発行物一覧
19	ありがとうございました — 市民・組織・団体・企業のご協力とご参加
20	決算報告
22	社会を変えるのはあなたの寄付です — 会員・寄付の制度について
23	誰にでも居場所と出番のある “ 包摂 ” 社会をつくる
	— ビッグイシュー基金とは



変わる自然災害とビッグイシューの活動の推移

この秋の台風で、被災されたみなさまの1日も早い復興を心よりお祈りします。

特に、台風19号は東日本の12都県に記録的な豪雨をもたらし、71河川の140カ所決壊し、死者88人、不明7人になりました(10月29日現在)。

昨年の年次報告書で、西日本15府県を中心とする広域・連続・集中豪雨が日本のどこで起きても不思議はないと書きました。前年の点・線的な災害に対し、今回は一気に“面”的被害となりました。海水温の上昇が原因の膨大な降雨をもたらす温暖化型、広域浸水を伴う流域型災害、急激に規模が大きくなるモンスター化台風、とも呼ばれています。しかも、毎年起こる可能性があり、その対策も従来の発想とは異なる根本的対応が必要になっています。

この8月、基金は第12期の活動を終わりました。ともに活動をして下さった当事者、あなたをはじめ、多くの市民のみなさんの参加のおかげです。改めて、感謝とお礼を申し上げます。

ふり返れば、基金は07年9月、ホームレスの人へ働く機会を提供する(有)ビッグイシュー日本の事業から生まれました。「立ち上げ期」(1期～4期)には、リーマンショックによる世界経済危機を背景に、東日本大震災や原発事故の問題に向き合い「路上脱出ガイド」の作成・配布などを行いました。「土台の形成期」(5期～8期)には、生活自立、現場の問題や課題への政策提案、活動への市民の参加を3本柱に、認定NPO法人化、若者応援ネット、住宅政策の提案をしました。「展開期」(9期～12期)は、さらに当事者が主役になれる活動へ、ダイバーシティ・カップ、ギャンブル問題などに取り組んできました。

依存症者は自立主義者

これら3期の変遷に加え、この12年で見てきた変化と課題があります。

一つ目は、路上生活者の減少。18564人(07年)が4555人(19年)へと75%も減り、その後への対応を求められています。

二つ目は、路上生活者やホームレス状態にある人の変化。新たに、家に居場所のない10代の子ども、難民、居場所のない妊婦、共同シェルターを利用する若い男女などが登場しています。(ビッグイシュー誌364号19年8月1日)

三つ目は、依存と自立、若い人々の考え方や生き方の変化。小児科医の熊谷晋一郎さんは「たとえば虐待を受けた子どもは“困ったら依存を”してはいけない”ことを学び“依存できない病”になってしまう。彼・彼女らは、身近な人に依存しないという意味での『自立』主義者にならざるを得なくなる。依存症者ほど“自立”している人はいない」とさえ言います。

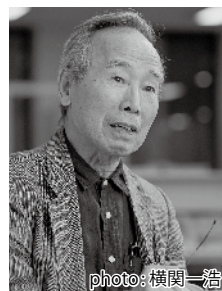
基金は当事者自らが、問題解決の担い手になれる「自助型の応援」という考え方で活動してきました。それは、たとえば「路上脱出ガイド」で選択できる情報、足掛かりにできる仕事や住まい、喜びを感じ元気になれるスポーツ・文化活動、などの「自活」への機会提供でした。

いま、路上生活者が減る一方、若い単身の男女、高齢者、生活困窮者など住まいを失うリスクを抱える人は、その数百倍になると思われます。社会の変化に加え、自然災害への対策すら180度考え直さざるを得ない時代に、基金の活動をどう展開していくのか。たとえば、究極の自助型の応援方策として、ベーシックインカムの方針につながる「フリーマネー」(最低生活費)の配布実験(ビッグイシュー誌367号19年9月15日号19頁参照)などがアイデアとして浮かびます。

こうした活動のプログラムやスタイルのあり方を、みなさんと直接向き合って語り合いたい、そんな場をつくりたいと願っています。

2019年11月3日

認定NPO法人ビッグイシュー基金理事長



佐野章二

photo: 横関一浩

第 12 期の活動概要——ホームレス支援のアップデートに向けて

2007 年 9 月、ビッグイシュー基金はリーマンショックなど世界金融危機や、続く東日本大震災・福島第一原発事故などで大きく揺れる社会の只中で活動を始めました。社会と時代の変動を背景に、3つの事業の柱、「ホームレスの人々の生活自立応援」「ホームレス問題解決のネットワークづくりと政策提案」「ボランティアや寄付などの市民の参加」を掲げました。そして、当事者自身が問題解決の担い手になれる「自助型の応援」という考え方をもとに、活動を続けてきました。

活動開始 12 年目の 2019 年、路上生活者は 4555 人へと 2007 年から 7 割強減りました。そして、駅や公園など路上で生活する人々は平均年齢 60 歳超、路上生活歴 10 年以上とそれぞれ 3 割を越え、高齢化・長期化しています。

一方で、東京都内の「ネットカフェ難民」は 4000 人、その 6 割が 40 歳未満の若者だと報告されています。さらに子どもや女性、高齢者などを含む相対的な貧困者は 1995 万人(2015 年)と言われ、明日にも住まいを失うかもしれない「見えないホームレス」の人々がいます。

路上生活者数が減ったのは、基金の『路上脱出ガイド』の作成・配布などをはじめ、全国各地での市民活動の努力の結果です。そして生活保護の制度につなげることができたためです。

今、広がり、深まり、個別化する、格差と貧困の問題に、これまでの活動ノウハウを生かし新しい発想で「ホームレス支援をアップデート」しながら、どう取り組むのか。

第 12 期は、これまでの基金プログラムを、他団体や他機関との連携により、さらにオープンで、実効性のあるものに発展させるべく、以下の活動に取り組みました。

(ホームレスの人々の自立応援事業——情報提供、相談、仕事・就業、クラブ活動など)

情報提供では『路上脱出ガイド』(東京 23 区編)を『路上脱出・生活 SOS ガイド』(東京 23 区編)として、路上脱出に加え、路上化予防、生

活再建という視点と項目を補強しました。18 年 12 月には 1 万部を発行し、2 週間で 8300 部の請求があり、19 年 7 月には新たな情報も加えた改訂第二版として 6500 部を増刷しました。

大阪版は主に図書館などを通じて、今期 3337 部を配布しました。また定例の昼回り、夜回り活動を通じて、ガイドとともに寄付物品を配布しました。さらに、18 年 9 月に HP 上で公開した東京・大阪のガイドの WEB 版には、月平均 7700 を越えるアクセスがありました。

生活自立応援では、10 代～70 代の幅広い年代の人から健康、住宅、法律、依存症などについての相談がありました。家はあるが生活に困っている人、刑務所を満期出所した人、障害や持病をもちながら地域で生活する人などに、緊急性に応じた情報提供や食糧支援をし、民間支援団体、医療関係者、行政機関、などと連携を取りながらサポートしました。

月例サロンは健康、仕事について考え、季節の行事などを楽しむ場を当事者とともに作りました。クリスマスパーティや、道端交流会など、当事者・市民が参加し交流できるイベントも継続して開きました。

仕事・就業応援では、雑誌『ビッグイシュー日本版』の販売者を中心に(有)ビッグイシュー日本と協力してサポートしました。5 月には大阪で、市民が路上で雑誌販売の仕事を体験するイベント「道端留学～1 日限りの販売者体験」も開きました。

また、スポーツ・文化活動では、サッカー、英会話、歩こう会、料理、パソコンなどの当事者によるクラブ活動を応援しました。今期には新たに東京で家庭菜園部が、大阪ではプロの講師の指導による講談部が生まれました。クラブ活動から発展したダンスチーム「新人 H ソケリッサ!」は関西ツアーを含む自主公演を重ね、20 年 3 月に劇場公開予定のドキュメンタリー映画「ダンシングホームレス」の撮影も終え、活躍の場を広げています。

（ホームレス問題解決の実践的ネットワークと政策提案——ギャンブル依存症問題 / 住宅問題 / ダイバーシティサッカー / シビックエコノミー）

ギャンブル依存症問題への取り組みでは、米本副理事長を中心に「ギャンブル障害研究グループ」で研究会を継続開催。その成果を、報告書第3弾『新版 疑似カジノ化する日本—ギャンブル障害を乗り越える社会へ』として、18年10月15日に発行しました。

また、18年12月には「ビッグイシュー基金研究計画審査委員会」を設置し、同会の倫理審査の承認を経て、京都大学大学院との共同研究で「大阪市におけるホームレスの人々のギャンブル障害に関する疫学研究」として121人のシェルター利用者に、聞き取り調査を実施しました。調査は24人のボランティア調査班が担い、結果は現在、解析作業中です。

住宅事業では、東西で住宅を借り上げ、「ステップハウス」の運営を継続。兵庫県の1室は18年9月の台風21号で被災し、契約を解消せざるを得ませんでした。今期は緊急用シェルター2室含む8室を延べ122人が利用し、4人が次の住まいに移りました。並行して、各地の空き家活用×支援的住宅の事例を報告書にまとめる作業を行っています。

スポーツによる社会包摂事業では、福祉医療機構の助成を受け、基金から独立した「ダイバーシティサッカー協会」と協同し、「スポーツ交流サロン」や「支援者講習会」、「ダイバーシティカップ5」などを開きました。この活動を、『2018年度ダイバーシティサッカー活動報告書』（5000部発行）にまとめました。前記の協会は7月に「第2回ダイバーシティカップ in 関西」を開催し、法人化に向け作業中で、基金は広報や事務を応援しています。

（ボランティア活動と市民の参加——ボランティア、寄付、そして広報活動）

ボランティア希望者には毎月「説明会」を開催。累計登録者は東京655人、大阪475人、札幌

から鹿児島までの各地で68人、合計1198人でした。

寄付参加では次のようになっています。市民応援会員は354人、企業などの会員は2件。寄付金控除のある「出会い寄付」など5つの寄付メニューへの参加者は786人、任意寄付参加者は1270人、その他寄付者（チャリボン等）552人、遺贈・大口寄付5人となりました。この結果、市民応援会員を含む寄付参加者は延べ2969人、会費&寄付額は合計6390万円となりました。

寄付参加促進のため、古本でNPOへ寄付できる「チャリボン」のチラシを改訂・増刷、2月と8月には会報でもある『ビッグイシュー日本版』の基金通信に遺贈寄付広告を掲載しました。

広報では、基金便りや基金通信「希望前線」を各24回発行。また、ホームページの改定により、FacebookやTwitterなどSNSとの連携が強化され、情報を広く発信できるようになりました。このほかビッグイシューオンライン、「Google広告」などの活用を継続。マスメディアでも、『路上脱出・生活SOSガイド』やダイバーシティカップ、歩こう会などが取り上げられました。

（その他）

2019年5月には東京事務所を移転することができました。少し広くなったスペースをいかし、市民や当事者が交流できる場を目指し、クラブ活動やボランティアプログラムなどの検討をしています。大阪でも不動産業者や情報提供をしてくださる個人の方と連携しながら、物件探しを継続しています。

ホームレス当事者(経験者)や生活困窮者の生活の自立を応援するために、情報提供、健康や住宅、仕事、法律などの相談、スポーツ・文化活動の応援を行いました。家はあるけれど生活に困っている人や、ネットカフェで暮らす若者、出所者・在監中の人など、多様な相談に対応するため、民間支援団体や行政窓口などと連携するケースが増えています。同時に定例の夜回りや炊き出し回りなど、路上生活を送る人々へのはたらきかけを継続し、当事者が参加し、主役になれる機会をつくりました。

【何があっても大丈夫——当事者への情報や交流機会などの提供】

「路上脱出ガイド」から、「生活 SOS ガイド」へ

2009 年 1 月に初めて発行した『路上脱出ガイド』には、路上を生き抜く上で必要な炊出しや緊急支援の情報を中心に掲載しています。これまで、札幌、東京、名古屋、京都、大阪、福岡、熊本の全国 7 地域で発行。東京・大阪以外のガイドは、各地域のボランティアが中心となって編集・発行作業が行われており、基金は印刷費を必要に応じて負担するなどの応援をしています。初版発行以来、東京では 68000 部、大阪では 37069 部を配布してきました。



※各地のガイドは基金HPからPDF版をダウンロードできます（無料）。

そして、近年の相対的貧困者の増加などを背景に、これまでの路上生活者をメインとした「路上脱出ガイド」から、若者、女性、ひとり親など生活に困窮するリスクの高い人や様々な生きづらさに直面した人々も利用できる支援情報をまとめた「路上脱出・生活 SOS ガイド」へと発展させるべく、プロジェクトを推し進めました。

2017 年 10 月に内容を一新した『路上脱出・生活 SOS ガイド』（大阪編）は、発行から 2 年間で 13337 部を配布してきました。今期は主に公立の図書館など誰でも手に取って読むことのできる場を通じて 3337 部を配布しました。

そして 18 年 12 月に、東京でも路上化予防、生活再建という視点に加え、依存症、LGBT、難民の人などに向けた情報も入れた『路上脱出・生活 SOS ガイド』（東京 23 区編）を 1 万部発行しました。反響は大きく、わずか 2 週間で 8300 部の請求がありました。さらに 19 年 7 月に、性被害の相談に対応する民間支援団体の情報を加え改訂第二版として 6500 部を増刷し、2 カ月で 4500 部を配布しました。東京ガイドの配布は、従来からの掲載関係支援団体や公共図書館、お寺、市民による手渡しなどに加えて、23 区内の福祉事務所からの請求もあり、民間、行政の垣根を越えて広がりつつあります。

さらに、18年9月にHPの全面改定にあわせて公開した東京・大阪ガイドのウェブ版には、月平均7700を超えるアクセスがあり、東京版を改訂した際にウェブ版も同時リニューアルしたことでアクセス数が伸びています。20代から40代の比較的若い当事者から「ネットカフェでガイドを見てきました」という相談の声も聞かれるようになっており、スマートフォンやPCで情報を得ながらネットカフェなどで生活する「見えないホームレス」の人からのアクセスツールになっているようです。



路上脱出・生活SOSガイド
(東京23区編)



路上脱出・生活SOSガイド
(大阪編)

（ひとことメモ）『路上脱出・生活SOSガイド（東京23区編）』配布の事例

中野区立図書館より定期的にガイドの請求があり、12期の1年で530部配布していただきました。中央図書館内ではガイド内容がわかるように、相談先一覧が記載されたページを見開きで立てかけるなど、配布の工夫がされています。担当者によると「一日に1～2冊とよくはけているので、当事者だけでなく、支援者が配布のために複数冊を手にとることも多いのではないかと思います」とのことです。

夜回り・道端交流会

大阪では（有）ビッグイシュー日本と合同で月2回の夜回りと昼の炊き出し回りを、東京でも一般社団法人つくろい東京ファンドと月1回の合同夜回りを継続。『路上脱出・生活SOSガイド』や、支援の情報を書いたチラシ「ビッグイシュー通信」をはじめ、衣料品やカイロなど日用品を延べ1866人（年）に配布しました。当事者の交流と楽しみのある大阪の「道端交流会」では、ビデオ上映会をメインに大阪市北区と西成地域で年6回開催。夜回りや公設の緊急シェルターで呼びかけをし、延べ73人が参加しました。

食料品の提供

大阪では個人からの寄付品の食糧や「フードバンク関西」から随時配達される食料品、東京では個人やU B S グループなどの企業から寄付された食料品を、それぞれ夜回りや事務所で配りました。収入や家はあっても食べることに困っている、という相談者には、事務所で食事をとってもらい、利用できる生活支援についての情報提供をしたり、支援団体や行政窓口とのつなぎ役をしました。

定例サロン

ホームレス当事者が参加して、仕事と生活を語り、交流する場として月に1回「定例サロン」を開いています。大阪では当事者による「サロン運営委員会」が発足し雑誌の販売者などを中心に、当事者自身が生活や仕事について話し合い、サロンの内容を決められる場づくりを目指しました。10連休となったGWや、梅雨時期の路上での仕事について対策を考えたほか、SNS講座、お花見、餅つき&初詣など幅広いテーマでの相談や企画をしました。東京でも「心と身体をほぐす」をテーマに書初めやピクニックといった季節の行事や、お料理会、ダンスチームとともに「路上でできるストレッチ講座」などを企画しました。サロンには東京・大阪合わせて1年で延べ542人が参加しました。

クリスマス・越年の活動

節目の第10回目を迎えた大阪ホームレスクリスマスパーティでは、“悩みも人生もディナーも味わいつくす”をテーマに市民、ホームレス当事者、スタッフ・ボランティア194人が参加。参加者全員で料理研究家の枝元さんのクリスマスごはんを囲みながら、当事者がその場で参加者のお悩みに答える「即興!? ホームレス人生相談」、体験型ワークショップ（整体、ナイトウォーク、シルクスクリーンプリント体験など）を楽しみました。東京でも当事者による実行委員を中心に、チーム対抗でビッグイシュー表紙のキャラクターや俳優に関するジェスチャーゲームに挑戦。市民、当事者、スタッフ・ボランティアなど52人が交流しました。

越年・越冬の活動では、北海道、仙台、池袋、大阪市西成区、岡山、鹿児島での越冬支援活動に食材費の一部を提供しました。また、年末年始には行政の支援が手薄になるので、簡易宿泊所やネットカフェなどの緊急宿泊費用などのサポートを延べ16人に行いました。



大阪ホームレスクリスマスパーティ



4月の東京サロン（ピクニック）

緊急・災害時のサポート

基金が住宅支援をした人2人の家が2018年9月の台風21号で被災し、その整理、引っ越しの手伝いをしました。台風時だけでなく、氷点下の日などにも緊急避難の貸し付けをし、東西で25件の利用がありました。また、東京マラソンなど大規模イベントの際の排除に対しては、シェルターや倉庫も避難場所やロッカーとして開放しました。

【暮らしを取りもどす——健康・住宅・法律・金銭管理など相談活動】

定例の個別相談日や日常的な巡回相談など、当事者が困りごとを相談できる場を設け、希望によって弁護士や医師、カウンセラーなどの、専門家やNPO、他機関につなぎ、当たりまえの暮らしを取りもど

すサポートをしています。

健康・福祉相談

大阪では月1回、府保険医協会と歯科保健研究会の協力を得て、内科と歯科の定期検診を行い、延べ97人が受診。服薬や加療が必要な人には無料・低額診療制度がある総合病院や、無料診察をしてくれる歯科につなぎ、13人が受診しました。住まいのある人にも、福祉制度や医療費減免の仕組みを活用し、生活状況に応じてサポートしました。今期もプロボノ看護師による保健相談会(体重・血圧チェックなど)、鍼灸の出張施術など予防的な健康相談プログラムを継続開催し、延べ154人が参加しました。

東京では8月に新宿連絡会医療班の協力を得て、医師、看護師、歯科医師、社会福祉士、薬剤師、栄養士、鍼灸師など専門家ボランティアによる、健康相談会を実施。計12人が参加し、体調管理や健康に関する相談の他、必要に応じて医療機関につなぎました。また、訪問看護の利用継続の手続きサポート、症状が重篤な人の病院同行などを行いました。



健康相談会（東京）



健康相談会（大阪）

法律相談、住宅相談

法律相談では路上生活者の支援に詳しい弁護士と連携し、大阪では5人の相談に対応しました。債務整理、相続問題などについて相談がありました。

住宅相談では、居住支援法人や不動産業者と連携し、初期費用・保証人が不要な低家賃住宅の情報提供をしました。また、住居費と生活費の試算、引っ越しの手伝い、住民票移動、賃貸契約の立ち合いなど、安定した住まいの確保と維持をサポートしました。さらに、路上からの一時的な居所として利用できるステップハウスとシェルター（12p.参照）を東西で計8室運用し、延べ122人が利用しました。アパートへの転宅や、他団体と連携した住居の確保など、東京31件、大阪44件の相談がありました。

金銭管理

路上で現金や身分証などを携行するのは盗難の危険があります。住所がないため銀行口座をつくれな
い人に対して、積立金・貴重品の保管手伝いをしました。アパート入居の初期費用や、仕事のための定期券購入などの経費の保管や積立を目的に延べ27人の利用がありました。この他、東京では、3人の当事者と定期的に家計簿の確認などを行い、金銭管理を応援しました。

【仕事が見たい——仕事・就業支援プログラム】

雑誌『ビッグイシュー日本版』販売者の支援事業

再就職の足掛かりに、ホームレス状態の人なら誰でもすぐに始められ、現金を得られる仕事、雑誌『ビッグイシュー日本版』の販売を勧め、必要なサポートをしました。また、販売の仕事に関する情報を掲載した「ビッグイシュー通信」を東京・大阪それぞれの夜回りや炊き出しの現場などで配布し、情報提供をしました。

2019年8月現在、ビッグイシュー誌の販売者は、全国で111人です。販売場所への定期的な巡回・ヒアリングなどを通じて、必要に応じて健康や住宅等の相談事業につなげました。また、猛暑が続いた夏場には、塩飴やボランティア手作りのスポーツドリンクの配布、定例サロンでの熱中症対策講座などを通じて、健康に販売できるよう支援しました。

また、2月、台湾・韓国・オーストラリアのストリートペーパーを発行する団体が日本に集い、各団体の取り組みについて共有し、議論した「アジア・パシフィックストリートペーパー・ネットワーク会議」に協力し参加しました。5月のGW期間中には市民がビッグイシュー販売の仕事を体験するイベント「道端留学～1日限りの販売者体験～」など、(有)ビッグイシュー日本の事業の企画や運営に協力しました。



『ビッグイシュー日本版』販売の様子

就業支援の連携事業

連携NPOや学校関係者の協力を得て、当事者が講師となってホームレス問題や仕事について語る場の企画、運営を行いました。また、ソーシャルワーカーなど専門家プロボノによるコーチングやカウンセリング、路上での仕事のストレスを軽減するボディワーク（体操）体験や、フットウェアメーカーの協力を得てシューズ販売の体験ができる会を開くなど、仕事について考え、関わる機会をつくりました。

さらに、福祉につながり、生活は安定したものの今後の就労について相談したいという当事者とは定期的に面談を行い、必要に応じて若者サポートステーションなどの就労支援機関に同行しました。

身だしなみ、ファッションショー

大阪、東京それぞれで衣料品や靴、衛生用品の寄付の受け入れや、プロ美容師ボランティアによるヘアカットの場を設けるなど、身だしなみを整える場と機会を提供しました。また定例サロンでは、市民を交えた「ファッションショー」や、仕事の工夫について当事者にヒアリングしてまとめ、お互いに紹介し合いました。



ヘアカットの様子

ビッグイシュー卒業生・就業者との関わり

住居を得てビッグイシューを卒業した人とも継続的なつながりを持つために、定例サロンやパーティ、サッカーなどのクラブ活動への参加を促し、関わりを持ち続ける機会をつくりました。また、卒業後の仕事や生活状況について、電話や自宅訪問によるヒアリングも行いました。

【生きていてよかった——スポーツ・文化活動プログラム】

基金では設立以来、ホームレス当事者による「スポーツ・文化活動」を重視しています。孤立しホームレス状態になった経験のある人が、再び人とのつながりをつくり、生きる喜びや意欲など元気を回復する機会になるからです。また、ともに活動するボランティアの参加機会が広がるからです。12期は新たに家庭菜園部（東京）、講談部（大阪）が発足しました。

スポーツ活動——ダイバーシティサッカー協会との協同

ホームレスサッカーチーム「野武士ジャパン」は、東京と大阪で月2回の定例練習と交流を継続しました。ひきこもりや不登校の経験者なども継続して参加するなど、多様な人が集う場となっています。また、「ダイバーシティサッカー協会」の活動とも連携し、同協会との混成チームで複数の大会に出場するなど、活動の輪を広げました（14p. 参照）。

文化活動——多様に広がるボランティア参加

東京では7月に家庭菜園部が発足し、ホームレス当事者がボランティアのアドバイスも受けながら野菜を育てています。カレー部は料理部へと名称を変え、手打ちうどんや揚げ春巻きなどカレー以外の様々な料理に挑戦しています。月2回のパソコンクラブも継続し、ボランティア講師に教わりながら、ホームポジションを覚えるなどスキルを磨いています。

振付家でダンサーのアオキ裕キさんとともにつくる、路上生活者や、路上生活経験者によるコンテンポラリー・ダンスチーム「新人Hソケリッサ!」の活動を、練習の場の確保や広報面で応援しました。8月の関西ツアーなどの自主公演も回を重ねる中、彼らの活動を追ったドキュメンタリー映画「ダンシングホームレス」が制作され、20年3月20日には劇場公開が予定されています。ソケリッサの出演情報はHP（<http://sokerissa.net/>）をご覧ください。

大阪では、「歩こう会」が4月に“道端おそうじ隊”として梅田周辺のごみ拾いウォーキングを開催。ボランティアやホームレス当事者ら34人が参加しました。また、講師の玉田玉秀斎さんの指導による「講談部」が19年8月に発足。「玉玉亭」の亭号を授った4人の当事者が月2回の稽古を続け、玉田さんが19年1月から月1回主催する「ビッグイシュー講談会」では「稽古」の進捗報告などを行っています。同部は、年末のクリスマスパーティでの出演を目指して活動を重ねており、基金は日程の調整や稽古場の確保などの応援をしています。その他、コーヒー倶楽部、プロレス鑑賞会など単発イベントを行いました。



ソケリッサ関西ツアー



講談部：玉田玉秀斎さん（中央）とビッグイシュー4人の弟子

生きやすい社会をととのえる

——ホームレス問題解決への実践的ネットワークと政策提案

現場での対人援助を中心とする生活自立応援プログラムに対し、現場で起こる問題の解決を展望し、対社会へと問題提起や解決のための方策を提案する活動です。住宅政策や実験的事業、新しい仕事づくり、ギャンブル障害、人々をつなぐ社会性スポーツの展開などに取り組んでいます。

【くらしの基盤をつくる——住宅政策提案事業とステップハウスの実験的事業】

基金では住宅問題の改善が「貧困問題解決の要」と考え、「住宅政策提案・検討委員会」（委員長：平山洋介神戸大学大学院教授）を設け、これまで3冊の調査・提案の報告書を発行してきました。（18p.参照）

安定した住まいを持てない人がいる一方、全国で846万戸（2018年総務省調査）といわれる「空き家」が社会の問題となっています。これらを活用し解決する方策を模索するための実験・モデル事業として「ステップハウス」の運営に取り組んでいます。ステップハウスは、連携団体や篤志的な家主の方から低額で提供された空き物件を基金が借り受け、ホームレス状態の人に低廉な利用料（月15000円～）で提供する事業です。初期費用、保証人なしで一定期間（6カ月～）利用でき、利用料の一部である月1万円を本人の積立金にします。たとえば利用料15000円の部屋を半年間利用した場合、家賃分を除外して6万円を積み立てられます。この積立金と基金の各種サポートを活用して、アパート入居や就職活動など、次の「ステップ」への応援をするものです。

今期、大阪では、2物件、全6室を、ステップハウス5室、緊急用シェルター1室として運用。いずれの物件も、家主さんには固定資産税と住宅補修費の一部として月5千円の家賃を支払いました。今期はステップハウス5人、シェルター103人（いずれも延べ人数）の利用があり、3人が次の住まいに移行しました。尼崎市内のステップハウスは18年9月の台風21号で被災し、居住不可能となったため、当該物件は家主さんと協議の上、契約を早期解消しました。

また、住居をもつ団体や、保証人不要の物件を仲介する不動産業者との連携が進み、期間終了後の移行先も多彩になりつつあります。

東京では一般社団法人つくろい東京ファンド（代表理事・稲葉剛氏）と業務提携し、新宿区の物件「ふらっとハウス」内2室を、ステップハウスとシェルターとして運用しました。ステップハウス1人、シェルターを延べ13人が利用し、1人がアパートへ転宅しました。



「悟楽堂」室内の様子



「ふらっとハウス」からの
転宅の様子

転宅にあたり、利用者には住民票、携帯電話の取得、物件探しなどの応援を行いました。また、転宅後も就職活動や金銭管理など生活を安定させるための月例面談を継続しています。「ふらっとハウス」は東京事務所移転にともなって契約を解消し、市民から新たに申し出のあった空き家をステップハウスとして活用すべく、調整をすすめました。

【新しい仕事をつくる——若者をホームレスにしないために】

2008年のリーマンショック以降増加した、「若者ホームレス」の問題を受け、基金では『若者応援プログラム集』や『若者政策提案書』の発行など、若者のホームレス化予防に取り組みました。そこで明らかになったのは、社会的不利・困難を抱える若者のための「出口≒仕事」の極端な不足でした。

8期以降は、彼らが働き・参加する場の有力なモデルとして、市民が社会問題の解決に挑戦する活動や場を、同時に新たな仕事・雇用の場にもする「シビックエコノミー」に着目しました。関連調査や会議を実施する中で「小規模でも持続可能な事業をどう作り、応援するのか」という課題が見えてきました。※ 18p.『シビックエコノミーの可能性』(A4版/32p.)参照

今期は特に、多様な市民的な事業・仕事・参加の場を下支えする収入としての「ベーシック・インカム」の可能性に着目し、海外の先行研究に学びながら、議論を継続しました。2018年12月には、(有)ビッグイシュー日本主催のイベント「とことん語ろうベーシック・インカム！～A I時代の仕事創造の土台になるか？～」の運営に協力しました。

【依存症からの脱却——ギャンブル障害の調査・提案事業】

ホームレス状態にいたるきっかけのひとつであり、そこからの脱出を阻む足かせでもあるのが、ギャンブル障害の問題です。

基金ではこの問題を考え、支援の方策を検討するために、米本昌平副理事長を中心に複数の研究会を設け、そこでの議論を『疑似カジノ化している日本—ギャンブル依存症はどういうかたちの社会問題か？』(2015年/A4判/32p.)、『ギャンブル依存症からの生還—回復者12人の記録』(2016年/A4判/88p.)として報告書にまとめました。

今期は、好評だった報告書第一弾のデータを刷新し、ラスヴェガス現地調査の報告やギャンブル障害の医学的考察などを付け加えた、第3弾の報告書『新版 疑似カジノ化している日本—ギャンブル障害を乗り越える社会へ』を18年10月15日に発行しました。報告書は、市民やホームレス支援団体からの請求のほか、大阪でのSDGsに関する学習会や、横浜でのIR誘致反対運動集会でも配布されるなど、多様な場で活用されました。

調査事業——ホームレスの人々と、ギャンブル障害の関係は？

2018年12月30日から19年1月4日にかけて、NPO法人釜ヶ崎支援機構の協力を得て「大阪市におけるホームレスの人々のギャンブル障害に関する疫学研究」を実施しました。大阪市西成区の越年越冬シェルターを利用するホームレス状態の人、342人のうち121人を対象に、ホームレス経験や、ギャンブルとのかかわりなどについて聞き取り調査をしました。聞き取りは、24人のボランティア調査員が担い、看護師など医療職の人、民生委員の人、社会福祉協議会や行政窓口のソーシャルワーカー、若者支援のカウンセラー、精神障害者支援やホームレス支援NPOのスタッフなど、多様な分野の専門職の参加がありました。結果は現在、京都大学と共同で、解析作業を進めています。

そして、同調査の実施にあたり、外部の専門家、有識者、ギャンブル障害の当事者によびかけ、被験者への医学的な侵襲や、倫理的な問題がないかを審査する「倫理審査委員会」を設置しました。第1回委員会は、2018年12月29日に開催され、上述調査の承認をしました。当日の名簿、議事要旨、委員会の目的や任務を示す内規、はビッグイシュー基金HPからご覧いただけます。



ボランティアによる調査チーム



実際の調査の様子

【ダイバーシティカップ——スポーツによる社会的包摂の空間づくり】

ホームレスサッカーチーム「野武士ジャパン」の活動から発展し、2015年から「ダイバーシティカップ」が始まりました。ホームレスの人にとどまらず、うつ病、LGBT、若年無業者、不登校やひきこもりの経験者、依存症の当事者など、様々な社会的背景、困難を持つ人が集い、サッカーを通じて交流する取り組みです。東京、大阪での7回の大会を経て組織として「ダイバーシティサッカー協会」が立ち上がり、独立しました。

2018年4月から始まった「社会的困難を抱える若者のスポーツ応援展開事業」（平成30年度 独立行政法人福祉医療機構助成事業）は、勝ち負け第一の“競技性スポーツ”に対して、人と人をつなぐ“社会性スポーツ”の展開を意味しています。その全国展開の第一歩として、新たに関西でもスポーツ交流サロンやダイバーシティカップを開催しました。また、各地の支援団体が社会性スポーツプログラムを展開できるよう、東京で支援者講習会を開きました。

スポーツ交流サロンは東京で年18回、大阪で年4回行い、東京で延べ333人、大阪で130人が交流しました。2018年10月には東京で5回目となる「ダイバーシティカップ5」を開催し、200人が参加しました。また、年4回開いた支援者講習会には111人が参加しました。この助成事業の詳細は『2018年度ダイバーシティサッカー活動報告書』（A4版/32p）にまとめ、紹介しています。（18p. 参照）

「ダイバーシティサッカー協会」の法人化とソーシャルスポーツコーチ

さらに、大阪大学の岡田千あきさん（人間科学部人間科学科准教授）による研究プロジェクトに基金スタッフが協力し、ホームレスワールドカップのオランダパートナー団体である「ライフ・ゴールズ・ファウンデーション」との連携も模索しました。2018年12月には同団体のスタッフが来日し、ホームレスや依存症当事者、出所者などにスポーツの機会を提供する「ソーシャル・スポーツ・コーチ」の講習体験会が大阪で行われました。2019年2月にはオランダのアムステルダムやユトレヒトを訪問し、現地のプログラム参加者やコーチへのヒアリングなどを通じて、日本への導入を検討しました。

2017年7月に基金から独立し設立した「ダイバーシティサッカー協会」は法人化に向けて鈴木直文さん（一橋大学大学院教授）を中心に動き出しており、2019年7月には協会が主催し、大阪で「第2回ダイバーシティカップ in 関西」を開催しました。大会にはホームレスサッカーチーム「野武士ジャパン」やひきこもりの経験者、LGBT当事者のチームなど、10団体160人の参加がありました。基金では継続して、法人化に伴う事務や体制づくり、広報などを応援しています。



第2回ダイバーシティカップ in 関西



『2018年度ダイバーシティ
サッカー活動報告書』



オランダ視察

ビッグイシュー基金の活動は現場も、政策提案も、そして全国各地でもと多岐にわたっています。これは 1198 人のボランティアのみなさんや、延べ 2969 人の寄付をして下さる方々の参加によりつくられています。この他、多くの市民、団体、組織、企業の応援に支えられています。

【参加のチャンスをつくる― ボランティア参加プログラム】

今期のボランティア登録者数は、東京 655 人、大阪 475 人の他、札幌、仙台、立川、横浜、三鷹、名古屋、京都、岡山、福岡、熊本、鹿児島などの各地サポーター約 68 人、あわせて合計 1198 人でした。

また今期は、3 人のインターンを受け入れ、ホームレス問題に主体的に関われる場と機会を提供しました。

定例の参加プログラムである、月 2 回の会報誌発送作業やフットサル練習のほか、熱中症対策のドリンク作成、おにぎり作り、多彩なイベントの準備や撮影記録、夜回りなどの巡回活動、月例サロンでの調理補助、クラブ活動講師など、多様な参加がありました。さらにギャンブル障害の調査では 24 人の有償ボランティアが参加（申し込み 31 人）し、会場への誘導や、調査の聞き取りなどを担当しました。2 月には調査に参加したボランティアに呼びかけ、中間報告会を開催しました。



おにぎりづくりの一幕

ボランティア説明会― 東京・大阪で毎月 1 回開催

ホームレス問題やビッグイシュー基金の活動、ボランティアを多くの人に知っていただくために、東京・大阪で月 1 回定例の説明会を開催しています。今期は大阪で 45 人、東京で 50 人が説明会に参加。説明会の後、希望者にはボランティアメーリングリストに入っていただき、定期的にボランティア情報を伝えています。

◇東京事務所：第 2 土曜日 13 時～（月によっては変更の場合あり）

◇大阪事務所：第 2 または 4 土曜日 13 時～

※参加をご希望の方は、基金サイト (<https://bigissue.or.jp/>) のお問い合わせフォームまたはお電話（大阪：06-6345-1517、東京：03-6380-5088）で、ご連絡ください。

【市民応援会員、メニュー寄付、任意寄付、物品寄付― 寄付参加プログラム】

市民応援会員と寄付参加者は合計延べ 2969 人、会費、寄付をあわせた合計金額は 6390 万円となりました。11 期と比較して、寄付参加者延べ人数は 77 人増え、寄付金額は 2830 万円増加しました。大幅な増収の主な要因は、5 人の方より大口の遺贈寄付をいただいたことによっています。

会員・寄付者の内訳

第 12 期の市民応援会員、メニュー寄付参加者、任意寄付参加者は以下の通りとなりました。
（市民応援会員）

にっこり（276 人）／ひとり立ち（78 人）計 354 人（会費金額計 804 万円）／企業・団体 サポーター計 2 件（会費金額計 125 万円）→個人、団体合計 929 万円

（メニュー寄付への参加）

出会い（337 人）／つながりウォーク（256 人）／実践応援ラン（88 人）／社会包摂マラソン（71

人)／市民信頼社会(34人)計786人(メニュー寄付金額計1296万円)

(任意寄付)

任意寄付は1270人、遺贈寄付は5人、その他寄付(チャリボンなど)は552人、計1827人(任意、遺贈、その他の寄付金額計4166万円)

こうした市民応援会員、メニュー寄付、任意寄付は目的や用途などを限定される補助金などとは違って、独自の縛られない資金として、社会の変化に柔軟に対応ができ、タイムリーな事業企画や、またスタッフのアイディアや自発性を活かすことにつながっています。改めて寄付参加者のみなさんに心からの感謝とお礼を申し上げます。

会報でもある雑誌『ビッグイシュー日本版』のビッグイシュー基金通信の「希望前線」欄において活動報告を行い、また、寄付参加者の方へは、毎月、ニュースレターでの事前、事後の報告などで、ともに活動をしていく参加者になっていただけるよう努力しています。また、寄付金については税制優遇を受けていただくため、寄付者のみなさんに2018年度分の寄付金控除のための領収書を送付しました。その結果、859人の方に納付された所得税から合計892万円が返金されることになりました(19年1月下旬送付)。

なお今期は、寄付参加促進のため、古本などでNPOへ寄付できる「チャリボン」のチラシを改訂・増刷しました。また、2月と8月には上記「希望前線」欄に遺贈寄付広告を掲載しました。引き続き寄付参加しやすい仕組みづくりを検討していきます。

(物品寄付)

基金HP、FacebookやTwitterなどのSNS、メーリングリストなどを通じて寄付募集を行いました。継続的に応援いただいている企業や連携団体、たくさんの市民の方から食料品や衣料品、タオルやカイロなどの生活用品まで、今期は225件(東京142件、大阪83件)の物品寄付がありました。それらは随時、夜回りや事務所に来られた当事者の方に配布しました。

古本で「ホームレスの自立を支援」——チャリボン

書籍やDVDなどをバリューブックスに送ることでNPOに寄付できる仕組みが「チャリボン」です。2013年4月から2019年8月末までに3014人の方から古本などをお送りいただき、買い取り相当額の586万6067円のご寄付をいただきました。仕組みや詳細についてはチャリボンのWebサイト(<https://www.charibon.jp/>)をご覧ください。

広報——インターネットでの広報に注力

広報活動では、ニュースレター「基金便り」や『ビッグイシュー日本版』の基金通信「希望前線」欄で各24回発行しました。また、ホームページのリニューアルにより、FacebookやTwitterなどSNSとの連携が強化され、情報を広く発信できるようになりました。さらに、「ビッグイシューオンライン」、SNSとの効果的な連携を話し合う会議を開きながら、Webでの広報に力を入れました。「ビッグイシューオンライン」などの各種メディアでは、イベントレポートや貧困・排除に関連した記事を作成、発信しました。その他、「ホームレス」「路上脱出ガイド」などの単語から基金HPに誘導する広告文を表示する、「Google広告」などの活用を継続的に運用しました。

メディア掲載

(新聞)

2018 年 11 月 6 日	産経新聞（夕刊） サッカーでつなぐ ホームレス引きこもり経験者 大阪の NPO 法人が練習会
2018 年 12 月 2 日	朝日新聞 路上脱出へガイド本 「相対的貧困」も対象 支援団体が無料配布
2018 年 12 月 13 日	朝日新聞 つらい経験、スポーツあれば乗り越えられる
2018 年 12 月 22 日	読売新聞 ホームレスに温か X マス 中央公会堂 料理や段ボールの家作り楽しむ
2018 年 12 月 23 日	大阪日日新聞 潮騒 大阪ホームレスクリスマスパーティ
2018 年 12 月 27 日	毎日新聞 貧困層自立へ 支援情報 ビッグイシュー基金が新冊子「子ども食堂」も
2018 年 12 月 30 日	愛媛新聞 「見えない貧困」支援模索 各地の団体（ガイド）
2018 年 12 月 30 日	京都新聞 見えにくい貧困 広がる（ガイド）
2018 年 12 月 30 日	東奥日報 野宿者は減少傾向も…「見えない貧困」広がる（ガイド）
2019 年 4 月 30 日	大阪日日新聞 感謝の路上清掃（歩こう会）

(雑誌、機関紙など)

2018 年 10 月	月刊ガバナンス スポーツで社会包摂を進めるための勉強会を開催
2019 年 1 月	週刊仏教タイムス 『生活 SOS ガイド』寺院でも無料配布を
2019 年 2 月	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー コレクティブ・インパクト実践論 企業と社会の利益は一致する（基金理事 井上英之氏）
2019 年 6 月	更生保護 ホームレスはビジネスパートナー～当事者を主役にする自助型の応援～
2019 年 8 月	倫風 『ビッグイシュー』が目指す何度でもやり直せる社会とは
2019 年 8 月	大阪保険医新聞 誰もが生きやすい社会作りを応援する

(WEB メディア)

2019 年 4 月 11 日	Yahoo! ニュース 東京の夜の街を歩きながらパンを配る…ホームレス支援の「夜回り」を体験してみた
-----------------	--

オフィスの新規拡張を兼ねた「市民交流サロン」の創設

当事者、ボランティア、スタッフが集まり、活動しているビッグイシューの事務所は年々手狭になり、東京と大阪オフィスの移転、拡張を目指してきました。

そして、19 年 5 月に東京事務所を移転することができました。少しだけ広くなった新事務所では、当事者と市民が交流できる「カフェスペース」の確保や日当たりの良いベランダを活用しての菜園部の発足など、当事者を中心に市民が集まって交流できる「交流サロン」の創設へと一歩を踏み出しています。大阪でも引き続き、ボランティアや当事者が自らプログラムや場をつくれるような、物件の確保を目指します。物件の情報収集を継続していますので、情報の提供をいただければうれしく思います。

これまでの発行物一覧



『路上脱出・生活SOSガイド』東京23区編
2019年7月 (A5/56p)



『路上脱出・生活SOSガイド』大阪編
2018年5月 (A5/44p)



新版『疑似カジノ化している日本』
2018年10月 (A4/36p)



『ギャンブル依存症からの生還』
2016年8月 (A4/88p)



『疑似カジノ化している日本』※絶版
2015年10月 (A4/32p)



『若者の住宅問題 & 空き家活用』
2015年10月 (A4/24p)



『若者の住宅問題 - 住宅政策提案書 [調査編]』
2014年12月 (A4/40p)



『住宅政策提案書』
2013年10月 (A4/24p)



『若者政策提案書』
2015年2月 (A4/32p)



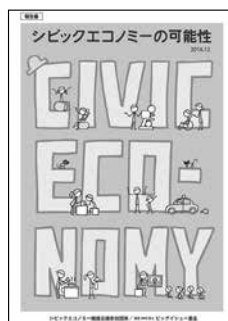
『若者応援プログラム集』※絶版
2014年3月 (A4/116P)



『若者ホームレス白書②』
2012年3月 (B5/32P)



『若者ホームレス白書』
2010年12月 (B5/32P)



『シビックエコノミーの可能性』
2016年12月 (A4/32p)



『2018年度ダイバーシティサッカー活動報告書』
2019年3月 (A4/32p)



『社会(スポーツ)をあそぶガイドブック
—サッカーが作る居心地の良い社会—』
2018年3月 (A4/56p)



『第2回ダイバーシティカップ報告書』
2016年11月 (A4/56p)

※上記資料は、無料で配布中です。お名前・ご住所・冊数などをHPの入力フォーム、またはFAXでお知らせください。(着払い送料のみご負担をお願い致します)

【助成金】

公益財団法人 パブリックリソース財団

【企業・団体寄付】

日本聖公会 神田キリスト教会／山のハム工房ゴーバル／キーン・ジャパン合同会社／（有）岩尾商事 岩尾秀明／麦っ子畑保育園／ティグレ連合会／ホワイト&ケースコミュニティカップ有志／Absolutely Marvelous Desing & Wear

【寄付サイトからの寄付】

公益財団法人 パブリックリソース財団（ギブワン、<http://www.giveone.net/>）

株式会社バリューストックス（チャリボン、<https://www.charibon.jp/>）

【物資の寄付】

UBS 証券株式会社（食品、衣料、日用品など）／認定 NPO 法人フードバンク関西（食品）／キーン・ジャパン合同会社（靴）／認定 NPO 法人さくらんぼ（食品、衣料、日用品など）／「辺野古」県民投票の会 元山仁士郎（日用品）／明星寺（衣料）／ポートピアグリーンチーム（衣料、日用品）

【各地のサポーター組織】

ビッグイシューさっぽろ／仙台ビッグイシューソサイエティ／NPO 法人仙台夜まわりグループ／NPO 法人萌友（仙台）／木曜パトロールの会（横浜）／ビッグイシュー販売立川グループ／びよんどネット（三鷹市）／真宗大谷派聞善寺（金沢市）／ビッグイシュー名古屋ネット／NPO 法人釜ヶ崎支援機構／ビッグイシュー日本京都事務所（社団法人関西厚生協会）／NPO 法人岡山・ホームレス支援きずな／ビッグイシュー福岡サポーターズ／ビッグイシューくまもとチーム／ビッグイシューかごしまサポーターズ

【その他】

グーグル株式会社／株式会社セールスフォース・ドットコム

決算報告

第12期の市民応援会費、寄付、助成金などの経常収益は7131万円となりました。第11期と比べ、会費収入は118万円減少しましたが、遺贈寄付が大幅に増え、寄付金収入では2946万円の増収となりました。この結果、第12期の正味財産増減額は2313万円となり、第11期の繰越金△150万円をあわせても、2163万円の剰余金を計上することができました。大阪オフィス移転と市民交流サロンなどの事業に活用させていただきたいと思っています。

【活動計算書 2018年9月1日から2019年8月31日まで】

科 目	金額（単位：円）	
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費	160,000	
賛助会員受取会費	9,290,000	9,450,000
2. 受取寄付金		
受取寄付金	54,610,737	54,610,737
3. 受取助成金等		
受取助成金	5,935,508	5,935,508
4. 事業収益		
生活自立応援事業収益	689,391	
政策提案事業収益	122,000	811,391
5. その他収益		
受取利息	81	
雑収益	506,660	506,741
経常収益 計		71,314,377
II 経常費用		
1. 事業費		
人件費		
給料手当	12,703,242	
臨時雇賃金	4,936,014	
法定福利費	2,399,353	
通勤費	1,520,726	21,559,335
その他経費		
業務委託費	2,936,772	
諸謝金	1,683,727	
印刷製本費	1,177,575	
会議費	1,094,318	
旅費交通費	1,972,789	
通信運搬費	2,023,586	
消耗品費	940,712	
家賃（光熱費含）	3,075,529	
賃借料	1,444,900	
保険料	278,200	
諸会費	53,000	
租税公課	1,050	
研修費	51,552	
広報費	3,110,400	
会報費	2,523,920	
寄付金	145,000	
支払手数料	425,461	
雑費	384,424	23,322,915
事業費 計		44,882,250
2. 管理費		
人件費		
給料手当	584,880	
臨時雇賃金	233,280	
法定福利費	90,171	
通勤費	41,640	
福利厚生費	48,885	998,856
その他経費		
印刷製本費	200,651	
会議費	28,597	
旅費交通費	264,040	
通信運搬費	466,689	
消耗品費	21,060	
家賃（光熱費含）	161,870	
賃借料	163,546	
諸会費	10,800	
租税公課	6,400	
支払手数料	658,905	
支払利息	75,797	
雑費	102,276	2,160,631
管理費 計		3,159,487
経常費用 計		48,041,737
税引前当期正味財産増減額		23,272,640
法人税、住民税及び事業税		140,000
当期正味財産増減額		23,132,640
前期正味財産額		△1,502,326
次期正味財産額		21,630,314

【貸借対照表 2019年8月31日現在】

科 目	金額（単位：円）		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	26,832,392		
未収金	265,000	27,097,392	
2. 固定資産			
資産合計			27,097,392
II 負債の部			
1. 流動負債			
仮受金	761,791		
未払金	266,040		
長期借入金（1年内返済予定）	1,044,000		
預り金	46,147		
当事者預り金	652,100	2,770,078	
2. 固定負債			
長期借入金	2,697,000	2,697,000	
負債合計			5,467,078
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		△1,502,326	
当期正味財産増減額		23,132,640	
正味財産合計			21,630,314
負債及び正味財産合計			27,097,392

【財産目録 2019年8月31日現在】

科目・摘要	金額（単位：円）		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
手元現金	390,024		
普通預金（三菱UFJ銀行堂島支店）	24,557,355		
普通預金（三菱UFJ銀行助成用）	0		
普通預金（三菱UFJ銀行新宿支店）	470,000		
郵便振替	1,046,568		
普通預金（ゆうちょ銀行）	72,606		
普通預金（三井住友銀行）	269,066		
普通預金（みずほ銀行）	26,773		
未収金			
賛助会員受取会費未収金（カード利用）	265,000	27,097,392	
2. 固定資産			
資産合計	0	0	27,097,392
II 負債の部			
1. 流動負債			
仮受金（南ビッグイシュー日本）	761,791		
未払金（財団法人健康管理協会他）	266,040		
長期借入金（1年内返済予定）（日本政策金融公庫）	1,044,000		
預り金（源泉所得税）	46,147		
当事者預り金（生活自立積立金）	652,100	2,770,078	
2. 固定負債			
長期借入金（日本政策金融公庫）	2,697,000	2,697,000	
負債合計			5,467,078
正味財産			21,630,314

【計算書類の注記】

1、重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準によっています。

(1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。なお、当法人は消費税免税事業者です。

(2) 事業費管理費共通経費の按分

共通経費は業務の従事割合によって按分しています。

2、事業費の内訳

事業費内訳	生活自立応援事業			ホームレス問題等社会問題解決のための政策提案事業				活動への当事者や市民の参加応援事業	事業費計
	生活自立応援	就業応援	スポーツ・文化活動応援	若者応援ネットワーク	住宅政策提案	キャンブル依存症問題	ダイバーシティ		
人件費									
給料手当	8,149,569	1,339,024	1,041,833	273,400	391,677	938,429	0	569,310	12,703,242
臨時雇賃金	1,829,578	98,858	25,021	0	0	131,602	2,757,381	93,574	4,936,014
法定福利費	1,374,656	210,462	166,321	45,085	64,623	154,577	289,655	93,974	2,399,353
通勤費	841,487	81,552	59,712	20,820	30,871	83,962	336,034	66,288	1,520,726
人件費計	12,195,290	1,729,896	1,292,887	339,305	487,171	1,308,570	3,383,070	823,146	21,559,335
その他経費									
業務委託費	1,520,260	83,000	83,000	83,000	83,000	182,100	812,912	89,500	2,936,772
諸謝金	267,137	0	10,000	0	0	764,590	642,000	0	1,683,727
印刷製本費	487,460	0	0	0	0	344,825	333,290	12,000	1,177,575
会議費	463,707	21,480	100,019	0	14,900	56,073	417,566	20,573	1,094,318
旅費交通費	803,764	41,190	170,147	0	86,897	335,299	464,576	70,916	1,972,789
通信運搬費	42,355	0	522	0	0	0	443,890	1,536,819	2,023,586
消耗品費	414,307	75,773	9,749	0	25,000	10,572	62,809	342,502	940,712
家賃（光熱費含）	1,812,943	226,618	226,618	64,748	97,122	194,244	291,366	161,870	3,075,529
賃借料	676,962	0	114,556	0	0	250,492	393,170	9,720	1,444,900
保険料	13,600	0	600	0	0	5,000	259,000	0	278,200
諸会費	43,000	0	0	0	0	0	0	10,000	53,000
租税公課	1,050	0	0	0	0	0	0	0	1,050
研修費	18,136	0	0	0	1,728	30,500	0	1,188	51,552
広報費	0	0	0	0	0	0	0	3,110,400	3,110,400
会報費	0	0	0	0	0	0	0	2,523,920	2,523,920
寄付金	145,000	0	0	0	0	0	0	0	145,000
支払手数料	38,522	0	934	0	123	4,749	21,006	360,127	425,461
雑費	202,403	21,000	19,100	0	0	131,621	10,300	0	384,424
その他経費計	6,950,606	469,061	735,245	147,748	308,770	2,310,065	4,151,885	8,249,535	23,322,915
事業費計	19,145,896	2,198,957	2,028,132	487,053	795,941	3,618,635	7,534,955	9,072,681	44,882,250

3、当事者預り金の内訳

内容	期首残高	当期増減	期末残高
生活自立積立金	999,100	△ 347,000	652,100
合計	999,100	△ 347,000	652,100

4、役員及びその近親者との取引

科目	計算書類に計上された金額	内役員及び近親者との取引
家賃（光熱費含）	3,237,399	3,237,399
広報費	3,110,400	3,110,400
会報費	2,523,920	2,523,920

5、使途が制約された助成金の内訳

内容	前期繰越額	当期受入額	当期減少額	次期繰越額	備考
平成 30 年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業 助成金	0	5,793,558	5,793,558	0	社会的困難な若者へのスポーツ応援展開事業用として平成 30 年度交付を受けた助成金 8,629,000 円のうちの当期使用分であり、未使用額はありません。

6、長期借入金の増減内訳

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
長期借入金	4,785,000	0	1,044,000	3,741,000
合計	4,785,000	0	1,044,000	3,741,000

監 査 報 告

1 監査の方法の概要

業務執行については、代表理事等から、現在会員数、活動内容等を聴取し、財産の状況については、損益計算書、貸借対照表の開示及び説明を受けました。他方、適宜、総勘定元帳、入金伝票、領収書、通帳の写し、郵便振替票等につき検討を加えました。

2 監査の結果

特定非営利活動法人ビッグイシュー基金の業務報告及び決算報告について、2018（平成30）年9月1日から2019（令和元）年8月31日までの監査を行った結果、客観的資料にもとづき明瞭かつ正確であって、適法であることを認めます。

なお、業務または財産に関して、指摘すべき、不正の行為または法令、定款違反の重大事実は認められません。

2019（令和元）年10月17日

特定非営利活動法人ビッグイシュー基金監事

木 原 万 樹 子



社会を変えるのはあなたの寄付です ― 会員・寄付の制度について

2012年7月、認定NPO法人となったため、基金への寄付は税制優遇されます。ご寄付をいただくと、納められた所得税から寄付額の4割弱が返金されます。(返金の上限額は納付所得税の25%まで) 公のことはすべて国が税で賄うという建前を変え、公を認定NPO法人にも担ってもらい、その分、税の一部を返金する、という仕組みです。公共の仕事を「税＝国家」にするのか? 「寄付＝NPO」にするのか? を選んで決めるのは、納税し寄付するあなたです。

市民の寄付で社会を変える時代がやってきました。寄付による社会変革、あなたも参加しませんか。

メニュー寄付 税制優遇の対象。「(寄付金合計額 - 2千円) × 40%」が税額から控除できます(確定申告が必要)。



出会い寄付
5,000 円 / 1 口 (返金額は 1,200 円)



社会包摂マラソン寄付
50,000 円 / 1 口 (返金額は 19,200 円)



つながりウォーク寄付
10,000 円 / 1 口 (返金額は 3,200 円)



市民信頼社会寄付
100,000 円 / 1 口 (返金額は 39,200 円)



実践応援ラン寄付
20,000 円 / 1 口 (返金額は 7,200 円)

- **任意額寄付** 事務手続き上 1,000 円からの受付となります。
- **マンスリー寄付** 月額 1,000 円 × 1 口 ~ (HP から受け付けています)
- **法人寄付** 損金算入限度額の枠が拡大されます。

* 雑誌送付などの特典はありません。毎月発行のニューズレター、年次報告書(年1回)をお送りします。

遺贈・相続財産の寄付 寄付された相続財産には相続税がかかりません。

税制優遇を受けられる認定NPOになって7年で、16人の方から相続税が免除される遺贈・遺産寄付をお預かりし、活用させていただいています(2019年8月末現在)。

* 遺贈、相続財産の寄付をお考えの方には、当基金の顧問弁護士、会計士が法律や税務などの相談をさせていただきます。お気軽に電話(06-6345-1517)・Eメール(info@bigissue.or.jp)でご連絡ください。

市民応援会員 特典があります(税制優遇はありません)。



にっこり応援会員

年会費: 15,000 円 (誌代相当分を含む)

【特典】『ビッグイシュー日本版』を1年分24回
毎号送付 & 雑誌の「基金通信」最新号にお名前を
掲載、年次報告書の送付(年1回)ほか



ひとり立ち応援会員

年会費: 50,000 円 (誌代相当分を含む)

【特典】『ビッグイシュー日本版』を1年分24回
毎号送付 & 雑誌の「基金通信」に1年間お名前を
掲載、年次報告書の送付(年1回)、パーティに
ペアでご招待(年1回)ほか

企業・団体「社会再生サポーター」 特典があります(税制優遇はありません)。

● キャリア再形成・サポーター会員 年会費: 250,000 円 ● 社会復帰・サポーター会員 年会費: 500,000 円 ● 社会再生・サポーター会員 年会費: 1,000,000 円

* 『ビッグイシュー日本版』1冊を1年分24回送付、雑誌に1年間お名前掲載などの特典があります(年会費に誌代相当分を含みます)。

<振込み> 郵便振替: 口座番号 00960-6-141876 口座名義 NPO 法人ビッグイシュー基金
お振込みの際は寄付・会員の別、連絡先(お名前、郵便番号、ご住所、電話番号)を明記ください。
<クレジットカード> ビッグイシュー基金のホームページ(<https://bigissue.or.jp/>)からご利用いただけます。

銀行での振込みをご希望の場合は、大阪事務所(06-6345-1517)までお問い合わせ下さい。

※ 個人の方のご寄付の領収書は1月~12月入金分をまとめて翌年1月下旬に発行・送付させていただきます。
(これを、確定申告時に提出していただくと納付税額から寄付額の4割弱が返金されます)

誰にでも居場所と出番のある“包摂”社会をつくる

——ビッグイシュー基金とは

ビッグイシュー基金は、有限会社ビッグイシュー日本（※）を母体に 07 年 9 月に設立した、ホームレスの人々の自立を応援する非営利団体です。12 年 7 月 1 日に認定 NPO 法人となり、当基金への寄付は税制優遇されることになりました。ビッグイシュー基金は①ホームレスの人々の自立応援、②ホームレス問題解決のネットワークづくりと政策提案、③市民のボランティアや寄付参加、という 3 つの柱の活動を通じて、貧困問題と社会的排除という氷山の頂点にあるホームレス問題の解決に取り組めます。それらを通して市民、ホームレスの人とともに、誰にでも居場所と出番のある包摂社会の形成をめざします。

「機会」豊かな市民信頼社会を——ビッグイシュー基金が目指すもの

ビッグイシュー基金は、自立の応援、モノやカネではなく「チャンス」の提供、ホームレスの人をパートナーにする、という考え方をもって活動しています。「自助型の応援」を基本に多くの NPO、企業や行政・政府とも協力しホームレスの人々の自立・自活の応援を進めています。

また、市民応援会員、市民寄付者などを中心に、多くのボランティアや市民とともに、市民同士の協力と共同を促進し、市民が当事者になれる活動を行い、再チャレンジしやすい「機会の豊かさがある」市民信頼社会の形成に貢献したい、と考えています。

そして、上記の 3 つの基本応援プログラムに加え、ホームレス状態にある人が望めば、サッカー、文学賞などスポーツ・文化のクラブ活動への参加もできます。生きる喜びや誇り、元気を回復し、当事者として、自ら問題解決の担い手になってもらいたいと考えています。

団体概要

- 名 称 認定 NPO 法人 ビッグイシュー基金
- 設 立 2007 年 9 月設立、08 年 4 月 NPO 法人の認証、12 年 7 月国税庁、17 年 3 月大阪府認定 NPO 法人格取得
- 所 在 地 [事務局] 〒530-0003 大阪市北区堂島 2 丁目 3-2 堂北ビル 4 階
Tel 06-6345-1517 Fax 06-6457-1358
HP: <https://bigissue.or.jp/> E-mail: info@bigissue.or.jp
[東京事務所] 〒162-0811 東京都新宿区水道町 4-28 村上ビル 2 階
Tel 03-6380-5088 Fax 03-6802-6074
- 役 員 理事長 佐野 章二 (有限会社ビッグイシュー日本共同代表)
副理事長 米本 昌平 (東京大学客員教授)
理 事 稲葉 剛 (立教大学大学院特任准教授／一般社団法人つくろい東京ファンド代表理事)
井上 英之 (慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 特別招聘准教授／
一般社団法人 INNO-Lab International 共同代表)
枝元 なほみ (料理研究家)
中川 康生 (ビッグイシュー基金法務担当責任者)
蛭間 芳樹 (野武士ジャパン・ダイバーシティサッカー協会コーチ／
世界経済フォーラム ヤング・グローバル・リーダー 2015)
水越 洋子 (『ビッグイシュー日本版』編集長)
監 事 木原 万樹子 (木原法律事務所弁護士)
相談役 雨宮 処凛 (作家)
- スタッフ 高野太一 栗原奈津子 川上翔 中嶋祥起 永井悠大 佐野ハナ 栗原侑子

(※) 有限会社ビッグイシュー日本とは？

ビッグイシュー日本は、「ホームレスの人々の救済ではなく仕事を提供し、自立を応援する」ことを目的に活動している有限会社です。ホームレスの人々の自助と自立を促すために雑誌を制作し、路上で彼らに独占的に販売してもらう仕事をつくり、その売り上げの 50%以上を収入にしようという仕組みをもっています。03 年 9 月から 19 年 8 月までの 16 年間で 1891 人が販売者に登録し、202 人が仕事を得て自立しました。また、累計 858 万冊を販売、13 億 441 万円の収入をホームレスの人たちに提供してきました。



2019 年 11 月 15 日発行

認定NPO法人ビッグイシュー基金

(大阪事務所) 〒530-0003 大阪市北区堂島2丁目3-2 堂北ビル4階

TEL : 06-6345-1517 FAX : 06-6457-1358

(東京事務所) 〒162-0811 東京都新宿区水道町4-28 村上ビル2階

TEL : 03-6380-5088 FAX : 03-6802-6074

E-mail : info@bigissue.or.jp URL : <https://bigissue.or.jp/>

デザイン：株式会社くとうてん